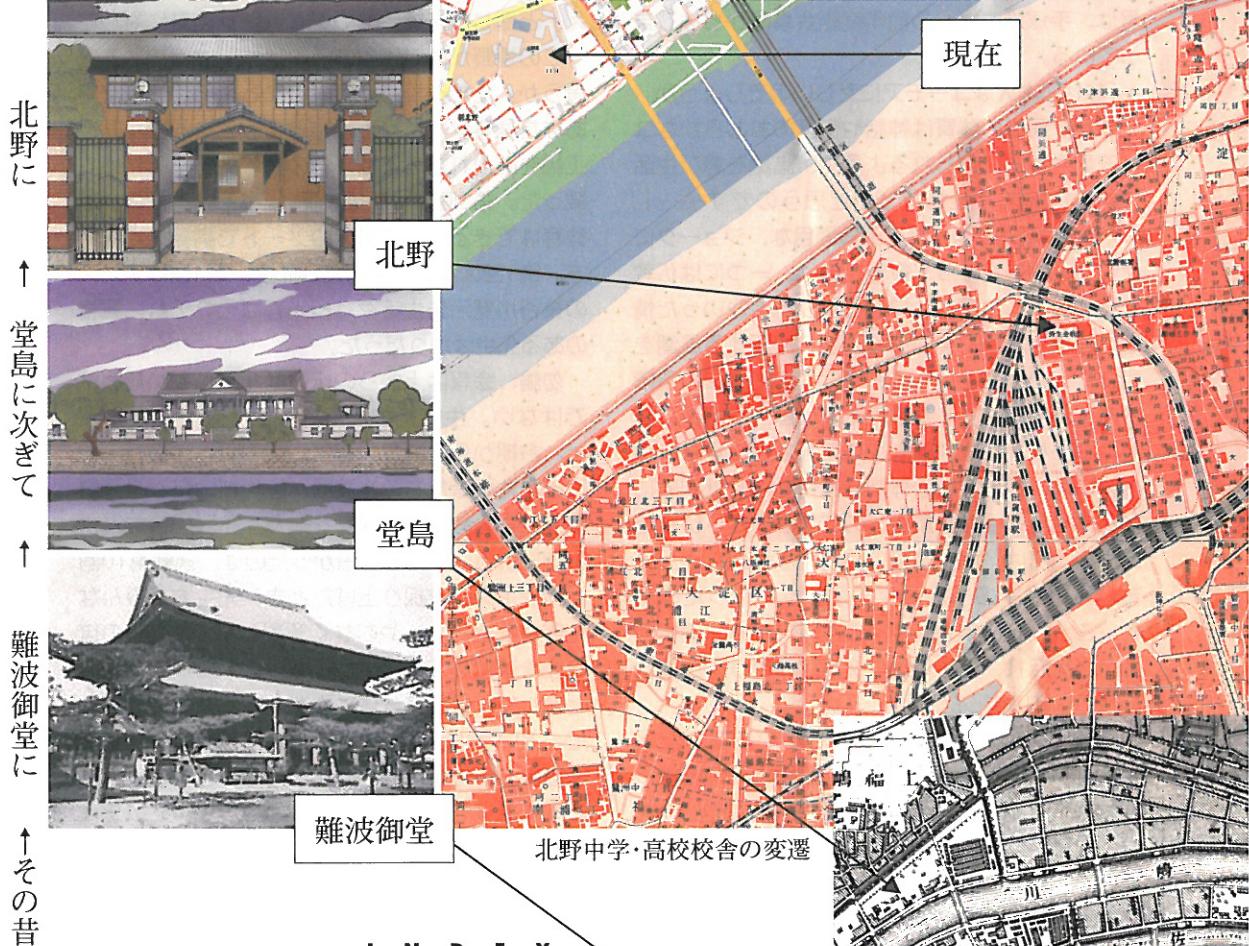


六稜倶報

journal of the RIKURYO alumni association of KITANO HIGH SCHOOL



I N D E X

- 02 会長挨拶、名誉会長挨拶
- 05 134周年総会報告
- 09 六稜温故知新（50号記念）
- 12 六稜会館だより
- 13 東京六稜会
- 14 母校に還った六稜生
- 17 名簿発行について、事務局だより
- 18 トピックス
- 20 Party Report
- 26 母校の窓
- 31 六稜短信
- 32 135周年総会案内

50

2008.3.1

会長あいさつ

六稜会報50号によせて 一「北野戦後史」のことなど一

六稜同窓会 会長 山本 次郎（62期）



六稜同窓会の「戦後六稜会報のあゆみ」によれば、1977（昭和52）年の六稜会報第10号から1994（平成6）年の第28号までの18年間、ぼくが編集を担当したそうである。ぼくの初仕事の第10号は、手塚治虫さんの前年度総会卓話からはじまっている。

「なぜ日本人はユーモアに乏しいのでしょうか。元来わが民族の体質は神話や伝承のおおらかなユーモアや機知に見られるように、諧謔を尊び生活に笑いの充ちた性格だったと思うのです……」

「それが現在のようなくそ真面目な、ジョークに乏しい人間に変わって行ったのは、一つには仏教思想の伝来、つまり、ワビとかサビとかいった情緒を尊ぶことが、笑いを軽視し、抑圧する風潮を生んだということ、もう一つは武士階級による階級差別の問題です。滑稽の本質は風刺や嘲笑にある。つまり、狂歌や臺劇、草双紙などに見られる内容には、多分に政治体制や風俗などを批判的にからませたもののが多かったのですが、こういった庶民の武器は、武士階級の差別的な弾圧によってきびしい規制のもとに押さえられて行ったのです。こうして日本人は笑いの本質を忘れ、話術の面白さを忘れ、絶叫したり沈黙するだけの民族になってしまいました。」

そういうえば、戦時中の北野もそのとおりだった。校長の絶叫、生徒の沈黙。手塚さんの話は、六稜会報の編集者はどういう方針で進むべきか、を考えていた者にとって、大変貴重な言葉だった。

シュテファン・ツヴァイクによれば、バルザックは革命騒動（おそらくは1830年の7月革命）を娼家の窓から見ていた、という。また、ナポレオン戦争に参加したスタンダールはモスクワからの敗走中、毎朝、ヒゲを剃っていた、というのだ。

それでは、この北野では、ぼくら少年たちは戦火に破れた教室の窓から一体、何を見、ひもじい暮らしの中で日々、何をして来た、というのか。ざっとこうした想いが、六稜会報第11号からの「北野戦後史」という名の続きを考案させた動機だったと思う。このコラムはぼくの編集長在任中、17年間続いた。

「北野戦後史」連載第1回は戦後校長第1号の濱田成政先生だ。「封建的な学校名は全部変えてしまえ」と命じた米軍政部のジョンソン旋風に対して「この焼野が原で青年の心の拠り所は何であると思うか。ただ母校あるのみである。その母校まであなたは青年たちから奪い取ろうとするのか」と正論を吐かれたことは、この会報誌上にはじめて載った。第2回は林武雄校長。「机と椅子があれば教育ができる」とご自分のノートで講義をされた方。第3回は漢文の栗石鉱吉先生、第4回はテニスの長谷川寛治先生等々、担当者はそれぞれに風格のある先生ばかりだった。

勿論、会報は上からの伝達ばかりしていたわけではない。生徒たちからの発言や発表も多かった。各期からの随想、報告、戦中戦後の教育をめぐる実体験者たちの座談会、笹部桜の座談会、府教委による教員強制異動を追及する討論会など、十指に余る。中でも面白かったのは、連載第10回「勤評余闇」を探り上げたとき、先生方がみんな発言を辞退され、やむなく昭和33、4年当時の自治会を運営していた諸君ら4人に「72期の青春」と題して、思う存分体験談を語ってもらったことだ。というような次第で、ぼくは取材や原稿集めにあまり苦労したことはない。むしろ本校は人材に恵まれすぎていて、森繁久彌大先輩の（1991年）文化勲章受賞など、話題に事欠くことは殆どなかった。

しかし、男女共学でありながら、女性の紹介が少ないという声もあったので、新知識の女性群の社会進出や、写真部制作の上半身モデル像、ワインの女王など、女性の華やかな充実した面もなるべく載せるように努力した。次期編集長を女性に委ねたのも、そういう意味からである。

会報 1号から49号まで

1970~



1975~



1982~



1989~



1995~



2001~



2005~



名誉会長あいさつ

卒業生への式辞に寄せて

大阪府立北野高等学校 校長 石本 正明
六 稜 同 窓 会 名誉会長



今年もまた卒業の季節が近づいてきました。卒業生諸君を前にどんな式辞を述べようか、思いを巡らす季節です。今回は新制高校になって第60回の卒業生（120期生）を送り出すことになります。その式辞は、この原稿を書いている時点ではまだこれから仕上げていかなくてはなりませんし、与えられた字数内で全体をご紹介することは出来ない量になるはずですが、その一部をご紹介する形で六稜会報へのごあいさつとさせていただきたいと思います。

* * * * *

さて、卒業生諸君、改めて卒業おめでとう。三年間の高校生活を終えて、今日この場から、皆さんはそれぞれの人生に向かって新たに出発していくわけですが、三年という時の流れを振り返ったとき、皆さんの中の心の中に去来する感慨はどのようなものでしょうか。本校で培ったものが十年後、二十年後の時代になっても、皆さんの心の中で生き生きとした生命を持ち続け、その人生を支えていくものであってほしいと私たちは願っています。皆さんは懸命に、勉学に、部活動に打ち込み、また学校行事や生徒会活動に取り組んできました。皆さん自身の努力が、今日の日をもたらしたことは言うまでもありません。しかし同時に、卒業の日は、家族の方々に対してはもちろん、北野高校を通じて出会ったたくさんの方々に対して、改めて感謝の気持ちを心に刻む日であってほしいと思います。

本校は、ありがたいことに大阪府立の高等学校としては最も長い歴史と伝統を持つ学校ですが、その時々に本校に関わっていただいた方々の熱い思いが、今日の北野高校の位置を築き、皆さん方の成長を支えてきたのだと言っても過言ではないでしょう。卒業する皆さんには、今日からは立場を変え、北野高校の卒業生としての誇りと自覚を持って、それぞれの人生を誠実に全うすることによって、北野高校の歴史と伝統に更なる輝きを添えることにもなり、皆さんに続く後輩達の支えにもなるのだということを、忘れないでいただきたいと思います。皆さんが多くの方々に支えられながら今までやってこられたように、皆さんのがんばり

も、卒業後の皆さんのが活躍が心の支えになるのだということを思っていただきたいと思います。」

* * * * *

「高校での教育は、極めて基礎的・基本的なものです。別の言い方をすれば、それは小さな完成品を創る教育ではなく、大きな未完成品を創る教育だとも言えるのではないかと思います。皆さんは小学校、中学校の9年間、そして北野高校での3年間で、大きな可能性を秘めた魅力ある未完成品となりました。これからは、自らの力で完成を目指して歩んでいかなくてはなりません。

私たちは今、物質的には世界の中でも類い稀な幸せな生活をしていると言えるでしょう。世界には、学校に行けない子ども達や食事も十分に食べられない人達がたくさんいます。一方、私たちが毎朝手にする新聞には購買意欲をかきたてるチラシが配られ、溢れるほどの品物、食べ物、衣服が店頭に並んでいます。しかし、この豊かさの中で、自分の未完成であることを意識し、自らの力で完成を目指して歩んでいくことは必ずしも容易なことではありません。そのためには、厳しい自覚と強い意志が必要だろうと思います。ものの豊かさの中で、心の豊かさを求めていくことは、苦労を厭わず、常に努力する姿勢を必要とすることもあります。

今の豊かさを浪費するのではなく、目の前の安穏に安住するのではなく、厳しい自覚と強い意志を持って、苦労を厭わぬ努力を続けることによって、今まだ未完成である皆さんが、とてつもなく大きな完成品になることを心から願って止みません。

卒業生の皆さん、名残はつきませんが、お別れの時が來ました。皆さんの前途は洋々たるものですが、それでもなお、雨の日もあれば、風の日もある、寒さの厳しい日もあるでしょう。しかし、そういう季節をくぐり抜けてこそ、花は開き、実を結ぶことができるのです。

健康に留意してください。前途のご多幸を心から祈念して、式辞といいたします。」

六稜同窓会134周年総会報告

定藤 規弘 (88期)

六稜同窓会134周年総会が10月28日(日)、北野高校内多目的ホールおよび六稜会館において、執り行なわれました。台風一過の快晴にめぐまれ、出席者数は221名にのぼりました。本年度は88期(昭和51年卒)が当番期として66名が参加し、受付、警備案内、卓話司会、懇親会司会、写真・ビデオ撮影などにあたりました。諸先輩方から引き継いだ伝統を踏襲しつつ88期独自の工夫を試みるという方針で、運営を計画・組織しました。



【第一部 総会】

午後1時に、司会を務める木村市三総務委員長(73期)の開会の辞により、総会が開始されました。まず、山本次郎会長(62期)が挨拶をされました。同窓会1年間を振り返り、各委員会の活動が順調であること、同窓会館の防湿工事と並行して収蔵品が修復されたこと、来年の135周年には、記念フェスティバルが予定されていることをお話しになりました。

次に名誉会長・石本正明校長のご挨拶がありました。まず、同窓会館の防湿工事、収蔵品の修復、化学実験室の空調設備の寄贈など、同窓会からの援助につき感謝の辞を述べられ、ついで、学校の現況について、大略以下のように報告されました。

1. 本年4月より通学区域変更となり9学区が4学区に、30数年ぶりに学区が拡大した。例年にくらべて志願者数は変わらず、320人の合格者の1／4が旧2学区から進学した。例年以上に目的意識が明瞭で意欲的、との印象がある。来年に向けての説

明会にも500人余りの中学生が参加した。

2. 平成14年から18年まで、文部科学省の指定を受けたスーパーインスハイスクールは終了したが、教育委員会の認可のもと、新たにスーパーインスコース(2クラス)を設置し、理数教育に力を入れていくことになった。

引き続き、各種業務報告が行われました。木村市三総務委員長(73期)は、予算に関する会則の変更、同窓会館地下ギャラリーの防湿工事・再オープン、手塚治虫作品の修復・展示について報告されました。さらに月1回行っているトークリレーを紹介されました。次いで藤田秀昭財務委員長(62期)より会計報告がありました。特に、化学実験室の空調工事にかかる支(700万円)は、135周年記念として平成20年度寄贈の予定であったものを、前倒し施行したもので、平成19年4月に工事完了とのことでした。和田芳郎名簿委員長(80期)は、135周年名簿を紙ベースで作成する予定であり、各方面のご協力をお願いしたい、とお話しになりました。

総会の最後に、88期学年理事渡辺也晃さんの司会で、大阪大学文学部教授 國府寺司(こうでらつかさ)さん(88期)による卓話「美術作品の真質について ファン・ゴッホ、フェルメール」が行われました(卓話の内容は別掲)。88期学年理事横山(旧姓・神原)慶子さんの花束贈呈の後、14時45分に第一部を終了しました。

【第二部 総会】

懇親会 211名(88期67名)

午後3時より、場所を六稜会館3階ホールに移して、懇親会ならびに119期歓迎会が行われました。211名の参加があり、今年卒業した119期は7名が出席されました。手塚治虫作品を含む収蔵品の公開がおこなわれ、防湿工事の完了後再オープンした地下ギャラリーは、懇親会の始まる前からにぎわいました。

司会は植村健治さん(88期)が執り行いました。今回の新趣向として、式次第と司会台の位置を、円形壇に移しました。このため、ライトグリーンのスーツ姿の植村さんに注目が集まり、「進行

状況がよくわかりました」との感想を多数いただきました。

乾杯にあたって、当日最高齢者であられる48期三砂栄次さんにご挨拶を、同じく48期飯田周助さんにご発声をいただきました。伝統にのっとり、立食形式、一部座席指定とし、最初のテーブルは異なる期が適度に混ざるように指定、一方で88期は同期の旧交を温めつつ、幹事期のしるしてある「六稜」の青バッジを胸につけ、世代をこえて親睦を深めていただけるよう、会場内外に気を配りました。

お酒が回ってきて、和やかな歓談の広がるなか、藤間流師範・橋本多佳代さん（88期）が艶やかな舞で花を添えて、会は大いに盛り上がります。引き続き、新会員となった119期の紹介があり、代表して平尾仲達さんから挨拶がありました。また坂本尚哉さん（119期）は、昨年度の文化活動振興賞受賞についてお礼を述べられ、盛大な拍手をうけました。

恒例のお楽しみ、くじ引きの仕切りは、88期学年理事の谷本（重里）明美さんです。昨年と同様、1等3万円の金券をはじめとして六稜Tシャツとハンカチにいたる豪華賞品が準備されました。それに加えて、88期から特別賞としてサントリーワイン（6本）が、さらに参加賞として全員にアリナミンVが出ました。植村さんの巧みな司会のもと、抽選と賞品贈呈が楽しく和気あいあいと進みます。

最後に、来年の総会を担当される89期の皆様方13名がご登壇になり、代表して坂平秀雄さんが、来年にむけての決意を頼もしく表明されました。コーラス部88期OB楠本圭子さん、野村（能島）明美さん、深瀬（橋本）須美子さん、村上佳久さんのリードで、参加者全員により校歌「六稜の星」を声高らかに齊唱、同じく88期応援団OB、団長片山信浩さん、団員安井昌子さん、広本（十河）展子さんのエールで会場が一体となり、大いなる高揚感に包まれました。そして山本雅弘副会長（71期）の閉会の辞をもって、午後4時半すぎにめでたくお開きとなりました。

【謝辞】

無事に幹事期の任を全うするにあたり、同窓会事務局のご助言ご支援に深謝いたします。87期金水敏さんには、昨年度の資料とともに、伝統の運営について懇切にご教示いただき、ありがとうございました。最後に、警備・会場案内リーダーの坂東市政さん、山中伸一さん、記録リーダーの村上佳久さん、受付リーダーの作山（山本）倫子さん、懇親会統括の日野晃治さんをはじめ、88期の皆様の絶大なるご協力に感謝します。

●六稜同窓会134周年総会 【園府寺 司氏卓話】

片山 信浩（88期）



本日は、「美術作品の真贋」に関する話題をゴッホとフェルメールを取り上げ、お話しさせていただきます。

まず、3枚の絵を見ていただきますが、このうち本物は1枚で、残りの2枚は偽物です。お分かりになりますか？

* * * * * ここでスライド * * * * *



3枚の絵はいずれも風景画で糸杉のような木が2本画面中央に立っており、その背景には緑～青のタッチで野や山が広がっている。

* * * * * * * * * * *

ファン・ゴッホ
(アルビュの道)
クリーヴランド美術館

さて、贋作のうち1つは、左端の作品です。この作品は、ある画商が頻繁にゴッホの作品を発掘させてくることから、疑いをもたれ、最終的に贋作とされました。贋作の手口は、白黒写真を左右反転させてそれを弟に模写させたということですが、この反転させるというのは贋作を作る際よく用いられます。

この絵が贋作とされるまで、この絵を含む多くの作品に著名な評論家が「ゴッホの作品である」との鑑定を出していたため、当時、業界は混乱を起こしました。しかも、贋作騒動が起った後、その評論家も贋作であると認めたものの鑑定した作品を全て贋作とせず、一部はやはり本物であるとしました。この絵もその一枚です。

もう一つの贋作は右端の作品で、その贋作をもっとゴッホらしくするにはどう描けばいいのだろうと日本の画家・福田美蘭氏が考え、この贋作を元に作られたものですので、皆さんにお間違えになるのも当然です。

(筆者注)ここで挙げられたゴッホの真作と贋作2点は、園府寺司著『もっと知りたいゴッホ 生涯と作品』(東京美術)に掲載されています。次に、フェルメールの作品をいくつか見せますのでまずその特徴をつかんでください。

* * * * * ここでスライド * * * * *

映し出されたフェルメールの作品は、牛乳を注ぐ女や青いターバンの女など光が斜め上から当たり、人物やテーブルクロスなどの陰影をくっきり細やかに表している、フェルメールの特徴を良く表しているものであった。変わったところでは細密画のような「デルフトの眺望」という風景画もあった。

* * * * * * * * * * * * * * * * *

次に、贋作が3枚含まれた絵を合計9枚見ていただきます。

この中には、フェルメール初期の作品が1枚含まれていますが、フェルメールの特徴は表れていますので、分かると思います。また、贋作のうち1枚は極めて下手ですので、絵を描いたことがある人なら、すぐに分かると思います。

* * * * * ここでスライド * * * * *

明らかにフェルメールの絵らしい光と陰、フェルメール青が描かれた絵がたくさんあった。でも、フェルメールは「市民」を題材にしたものばかりと思っていたら、キリストなどを描いた宗教画や風景画も映された。

* * * * * * * * * * * * * * * * *

さて、皆さんお分かりになりましたか?

まず、「極めて下手な」贋作は、人物のデッサンが大幅におかしい絵です。



ハン・ファン・メーヘレンによるフェルメール贋作

この絵の女性のスカートに隠れた足を見ていただくと、右足と左足の膝の位置がおかしい。

このままでは左足が右足よりかなり長くなってしまいます。また、腿の長さに比べ膝下が長すぎます。これでは異様に膝が長い人間があるいはスカートのなかで足を浮かしていることになってしまいます。

フェルメールは、極めて細かい描写を丁寧に描くので、このように基本的なデッサンを間違うわけがありません。

二番目の贋作と疑われている絵は、この宗教画です。従前、フェルメールは宗教画を描いたことは知られていませんでした。ある時、イギリスの評論家が画商を訪れ、そこで一枚の宗教画を見つけ、「これはフェルメールに違いない」と確信したそうです。いわゆる天啓です。そこで、その作品の出所等を調べ上げ、フェルメールの作品だと判明させたということです。

これは人物画や風景画しかないと考えられていたフェルメールの作品に、宗教画もあったという新しい事実を加えたということで、その業績はたいへん高い評価を得ました。贋作とおぼしき作品

は、どうやらその二番煎じらしく、その評論家がやはり始めて見て、フェルメールのものであると確信したそうですが、現在、その真偽は評論家のなかでも分かれ、半数以上の評論家は疑わしいとしています。私も極めて疑わしいと思っています。

さて、三つ目の贋作は、「エマオのキリスト」という作品で第二次世界大戦直後、世間を揺るがす大騒動になったものです。



ファン・ファン・メーヘレンによるフェルメール贋作
「エマオのキリスト」
ボイマンス・ファン・ベウ
ニンヘン美術館

第二次世界大戦後、ナチス幹部のゲーリング所の作品から「キリストと悔恨の女」というフェルメールの作品が押収されました。

フェルメールの作品は、オランダの宝とされており、このような貴重な作品をナチスに売り渡したのは売国奴であるとして、その犯人捜しが行われ、画商であるファン・ヘン・メーヘレンが逮捕されました。

メーヘレンはナチス協力者とされてはたまらないと、その作品は自分が書いた贋作であると告白し、様々な証拠を申し立てました。例えば、それは17世紀の古い絵を下絵にして書いたもので、その下絵の図柄「騎馬戦」を説明し、エックス線で調べたところ、その絵柄が浮かび上りました。

しかし、ナチス協力者であることを逃れようとする偽証ではないかと疑われ、贋作であるとは認められませんでした。そのため、メーヘレンはフェルメールの絵とされていた作品について次々に自分の贋作であると告白し、その一点が今、お見せした「エマオのキリスト」という作品です。当時、その作品はオランダのボイスマン美術館が法外な価格で購入していたことから大騒動になりました。結局、メーヘレンは牢獄の中で贋作を衆人環視の中で制作し、一連の作品は自分が書いた贋

作であるということが認められました。この結果、メーヘレンは無事、贋作制作の罪で投獄されたということです。

通常、絵の真贋はなかなかはっきりとはしないもののですが、この事例は贋作制作者自らが告白したという大変珍しい事例です。この作品は今でもメーヘレン作として展示されております。皆さんもオランダを訪れる機会があればご覧ください。

【卓話の感想】

日頃、とりづきにくい美術作品について、「真贋」という観点から分かりやすく話していただきました。しかも、歴史と密接に絡んでいることを始めて聞き、驚いた次第です。

高校時代と比べほどんど外見も変わらず、このことにも驚かせられました。野球部のOB戦～マスターズ甲子園にも今だに出席し、来年こそはクリーンヒットを打つのだという彼の気迫が若さの源のようです。

【園府寺氏のプロフィール】

北野高校88期。大阪大学文学部卒。同大学院文学研究科在学中にアムステルダム大学に留学。文学博士号を取得。広島大学を経て2001年より大阪大学大学院文学部教授。専攻は西洋美術史。ゴッホ研究の第一人者。高校時代は野球部で強打の一塁手。

88期より寄付

今回の総会担当88期より、同窓会へ8万円の寄贈を受けました。
六稜会館の機器購入をさせていただく予定です。ありがとうございました。

『六稜』温故知新

【昭和9年の運動部青年達、そしてその熱き願い】

片山 信浩（88期）

昭和9年—それは今をさかのぼること70有余年昔のこと。その前年に日本は国際連盟を脱退し、中国に目を向ければかの地では満州國が建国され、ドイツではヒトラーが、またイタリアではムッソリーニが勢いをいよいよ盛んにし、一方、アメリカ合衆国ではルーズベルトがニューディール政策を開始するなど、現在から振り返ればいよいよ歴史が大きく転換しようとする時代がありました。当時の北野中学の先輩たちも、その時代を吹き抜けようとする強い風の兆しを勉学に、クラブ活動にうっすらと感じてました。当時、在籍していた諸先輩は今では90歳になんなんとする年齢に達し、ご存命の方も少なくなっていらっしゃることでしょう。

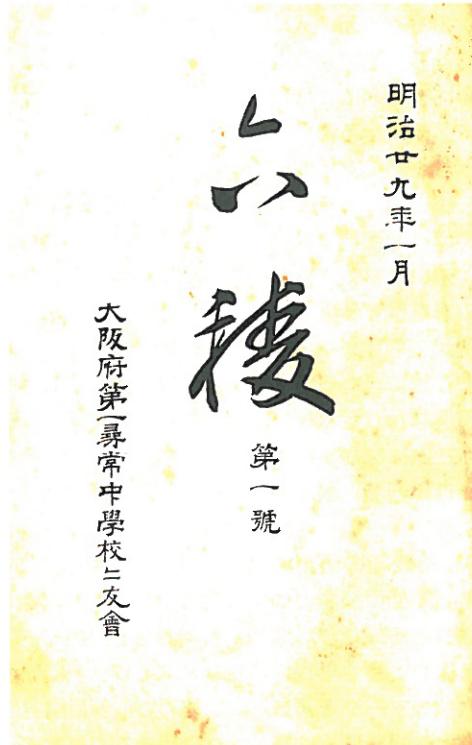
今、手元に当時の北野中学の会報『六稜』があります。ここに「運動部主将紙上座談会」として、柔道部、剣道部、野球部、庭球部、ラグビー部、籠球部、陸上競技部、水泳部そして機械體操部の主将が後輩に対し、それぞれクラブへの思いを述べてらっしゃいます。紙面でいくつかを紹介し、当時の北野中学生に思いを馳せてみるのはいかがでしょう？

（なお、記載したものは原文を抜粋したものであり、旧仮名遣いは現代文に置き換えてあります。）

武道の真髓を述べて後輩諸君に一言す

柔道部主将 尾崎 克幸

東湖先生曰く「神州は武を以て其の基を建つ」と。抑 我が国は建国以来武の国であり、武徳の



国である。而も我が武道たるや此の偉大なる武の具体的表現にして大日本建国精神の表徴、即ち建国以来三千年に亘れる、我が国民精神の渾然結晶せしものである。（略）

今振り返って、我が北中柔道部を懐古して見るに我が六稜柔道部はその源を、我が校創立時代に発するのである。創立時代より現代に至る、其の間我が先輩諸兄等の刻苦奮闘猛練習により、その績は燐として大阪府下否全近畿に輝き居たのである。而るに悲しい哉、ここ数年先輩諸兄等の真摯なる練習と熱烈なる意氣にも拘らず連戦連敗の憂

き目を見、毎年の主将および部員一同切歎扼腕、悲憤の涙を流して、猛練習を重ねたのである。（略）

我が北中は、智育偏重の弊ありしも近頃に改まりしは誠に近海とすべきである。古訓にも「文事あるものは必ず武備有り」と、文武両道を兼ね備えてこそ、眞に完全なる日本人と言い得るのである。亦我が北中生の唯一の短所は、身体の羸弱なる点である。国家に一端緩急有らば、文事ありとも体力有らざれば、物の役にも立たず。故に吾人は此の校を去るに及び、諸君が武道をもって確乎たる精神と強固なる身体を作られんことを切に希望す。

尾崎主将は、このほか五年間の思い出として寒稽古をあげてらっしゃいます。まだ日も開けやらぬなか霜柱をかけて登校し、寒稽古十日間をやり遂げた愉快さは一生の思い出だそうです。

続いては、当時、運動部の雄であった野球部です。

熱球に題す

野球部主将 柴田 克造

体育の発達につれて種々の運動が興って来たが就中野球が最も隆盛の域に達している事は諸君の周知の事である。然し真に野球を知っている者は、之をやった人である。(略) 我が言う所の人になる時は余暇の多い中学時代である。此の学問と心身の鍛錬に有意義に費やさるべき時期に、徒に友のこれを行つて眺め暮し、人生の華たる青春を精神的に肉体的に何等得ることなく過ごす校友の如何に多きか。(略)

今、我が主将就任以来の部の事々を回顧すれば愉快だった事、苦しかった事、泣いた事等次から次と、頭に浮かんで来て懐旧の念を禁ずる事ができない。(略) 然し幾ら如何に考えても残念なのは石によるイレギュラ・バウンドが臉に当たった上田君の負傷だ。正投手上田の負傷なかりせば、決してむづむづ壇中に敗をとることはなかったであろうに、誰が投げて置いたかこの石を。僕等が敗れたのもこの石一個だ。(略)

三宅、小島時代堂々と獲得した真紅の優勝旗は、我をはなれて既に五年、そして部員諸君と語った優勝の夢も既に破れた。されど冬来たりなば春遠からじ、我が部の冬は既に去り、今や早春に似たり、そして歴史をほこる六稜のマークを再び甲子園に輝かせて、我が夢を現となすも遠くはあるまい。

柴田主将は、野球部の思い出として、合宿。中

でも合宿の食事をあげてらっしゃいます。「さあ、大会だ頑張れ、すき焼き。明日は浪中戦だ鎧袖一触だ、すき焼き。勝ったぞ、すき焼き」。うーん、今、読んでもおいしそうです。これなら厳しい合宿も楽しいかったかもしれません。次は、当時のハイカラなスポーツ、庭球部です。

眞のスポーツマン・シップを味ふにはテニスをやれ

庭球部主将 土屋 清毅

晴れ渡った空に冴えたガットの音を響かせながら白い球を追いつつコートを縦横に駆け回つてゲームに熱中しているのが我が部員である。見るからに清らかな白のユニフォームに身を包みて、眞珠の肌触りを思わせるフェルトのボールを自由自在にネットの上を往来させる愉快さは一度硬球を手にしてみなければ味わえぬものである。(略)

テニスはゲームそのものが上品であるばかりでなく、其の精神たるや、又スポーツ界の王者であろう。スポーツマンシップはテニスに於いては、他の何れよりも優れている。敵味方に分かれて試合をしていても、親しさが顔に表れるのは隠せぬ事実である。然し内面では火の如きファイティング・スピリットに燃えているのである。(略)

終わりに部員諸君に忠告する。(略) より上手になろうとすればより一層の努力が必要である。努力の結果は一時には表れなくてもやがては表れるものであるから、上級生は後輩のため縁の下の力持になる心持を持って欲しい。上級生だからとい

下級生諸君に告ぐ

野球部主將 中 雄

古人の言はずや「健全なる精神は健全なる身體に宿る」と、然る前によりて學問と共に、運動の必要なことは論を俟たず、就中運動の根本精神にして専ら身心の鍛錬を教説、譲り、且つ不撓不屈の美德を養成し併せて姿勢、態度を堂々たらしめたる創道こそ、その古き歴史と他の武道新進競技の及び得ざる所、然して國古來の武士道を自ら體出し得べき唯一の修業なり、神州男子すてて修業せざる者なし。然らず、今や國家非常時に當り戻り逸りにおかせられて斯道御榮勳の爲、萬中に道場を設けられ事を況々り斯道の發達のため欣快に被へず。

六種競技者、多幸なりし昭和九年の秋も既に終らんと、頼れば古き歴史と傳統を誇る我が北野中學も其の比多少の遜色ありしものゝ如く、假令ば鼎足の其一足短くして均衡を得ざるの憾み無きにあらざりしも近習皆育徳育と共に體育頃に進歩し過去一年間毎校は各方面

第一回目 第三號 附録

格學賞行日記 六後編撰員 山本 金
見立する風評に山に、今そらかと八千種の、
喫食れたる色々花、露で匂ひ立せど、
ふみかけつゝ、迷み行、秋の底とも良しけれ、
今や天高く風冷正る晉唐遊行の好景點焉と見物散
行の早朝好景點ぞと、何れの時ある茅むべに大阪府
第一番當中學校生徒が罪苦を甘めよと殿様せんとて
大和地方向へるは實に明治二十一年十一月九日なり
そぞ。

十一月九日月曜天氣晴朗賞行百沈起が如く復一点の鑑
賞だなし。

貴ぞ成らるる陰陽寺嘗され御と極て直に夏瀬、恭安
寺御と御と交づれば東方より自らとして祓色蒼然
なれ一陣の長笛と吹きて滿身さららに至る
が澤源と自己に代被せる院見と御と新所なれたり。
年賀六時三十分从久松原は連鎖場所に御座き渡り金子校
長を始めて五時、四時、三年の各級、教員、監督及び生
徒處處二百有餘名が集りぬは長は監督歩中尉の軍服
府吏其の人を得て就職其の所外ひ外男も裸浴に應るに
通交五市之事を以て天下の人心として轉翰々ならし
○西郷隆盛論 武田 雄 五年生

城山城下一片の香花長は蓋して實圖有志の欲慕を受
け御夫嗣客として低宿町廿年の世を忍ばしのる御
祖より與此がおが苦の下御の豆人か厭れむ。

徳川三百年の素がも其出づて其劍を以て策をく
府吏其の人を得て就職其の所外ひ外男も裸浴に應るに
通交五市之事を以て天下の人心として轉翰々ならし
A、大阪郡ヨリ釜山物マ
B、朝鮮送路船給付着マ
C、京城發ヨリ日本丸物マ
D、奉天贊凡記
E、新京訪問記
F、ハセヒントの第一日
G、ハルビンに於ける第三日

満洲旅行記 紀行

天下利、求名須求世
叶利應計天下利、求名須求世

ってコートの手入れを嫌がるようでは下級生の模範にならぬ。部員だけでも良いから利己主義を解消してほしい。

さすがハイカラなスポーツです。なんとも爽やかなテニスシーンから紹介が始まっています。この紹介で土屋主将は、テニスをすることの楽しさを理解してもらうことを訴えてらっしゃいます。

「僕達は趣味でテニスをやるのであって、優勝を目当てにしているのではない」とも記されていますが、そのなかから立派な選手が現れ、部をリードして欲しいということのようです。

スポーツマンシップといえば、この部ははずせません。次はラグビー部です。

吾がラグビー

ラグビー部主将 松井 八十男

凡そ総ゆるスポーツの中で最も華々しきもの、それは吾等の賛美してやまぬラグビーではなかろうか。諸君はあの橢円形のボールの持つ独特な感触を知って居るか、そして又秋晴の青空の下で芝生の上を心ゆくばかり駆け回るあの心持を。

(略) 今六稜魂を考えてみよう。諸君は何時か、前校長が、「六稜魂とは最後のどたん場で、よく頑張り通す魂だ」と言われたことを記憶して居るだろう。然して、亦これラグビーのあの精神に共通している点あるを、知るのである。そして六稜魂を有する吾がラグビー部が後半に強いと、いうのも亦偶然ではないのだ。(略)

今や日本は非常時だ!! 日本は孤立だぞ!

この非常時を開きし、日本の地位を一層鞏固にする者、それ自我を捨て「闘志満々倒れて未だ止まず。」のあの精神の下に陶冶されたる、吾がラガードにあらずして何者たるぞ。

有志諸君よ!! 吾等の下に馳せ来たれよ!! そして共に共に吾が北中の向上を計り非常時を開き得るだけの精神又身体を作ろうではないか。

ラグビー部は創立して昭和九年には十二年になり、この年は天王寺中学に勝利し、天理中学には一点差で惜敗するなど、「来来年の正月甲子園、原頭に大活躍されている新人諸君の姿を幻想するに難くない」と松井主将の意気はますます高くなつてらっしゃいました。

最後は、アスリートの集う部、陸上競技部です。

所 感

陸上競技部主将 早崎 尚之

諸君、私は昨年四月以来拙き才能を持ちながら陸上競技部にあり諸君の上に立ち誘い來り一心不亂に出来得る限りの努力を払ってきた。やがて諸君と御別れしなければならない時に当り一言以て諸君を激する次第である。

憶ふに我北中一幾多先輩の残された輝ける歴史を誇る北中の近頃の有様はどうだろう? 若人の持つべき意気がない。全く昔日の如き覇気がない。六稜魂は衰えつつある。(略)

諸君! 真に母校を愛する者は此のスポーツの意を理解して健全なる身体と健全なる眞の六稜魂を持って、この北中をして今や奮起せんとしつつある機運に乗じて昔日の意気に挽回せしめよ。

(略)

諸君!! 男子は居るか! みな男子の筈だ!(略)

諸君。苗の如何に貧しくても何れは成長して大樹と成る可き種である。諸君よ。一に練習、二に練習、三に練習である。(略)

「頑張って呉れ。」此の一言は諸君に別れて行く僕達の大きな呼び声だ。さらば諸君! 延びよ。北中!!! 奮え六稜!!! 頑張って呉れ。競技部!!! と叫んで別れよう。

早崎主将は、さらに「『健全なる精神は健全なる身体に宿る』熟と意気とを以て伝統を保持せんとするのは先ず『スポーツ』に依らなければならぬ」と熱く語ってらっしゃいます。当時もさぞや熱血漢の主将で部員を引っ張ってらっしゃったのでしょう。その姿が目に浮かぶようです。

さて、いくつか当時の運動部主将の後輩に残す言葉をピックアップさせていただきました。皆さま、どのようにお感じになられましたか? 時代は異なるけれども僕たち北野中学生・高校生が現役当時と変わらないなあと感じた点もあるでしょう、また、時代を彷彿させるなあと思った点もあるでしょう。でも、クラブ活動を通じ一生懸命、中学校生活を送ってきた学生の熱い想いは確かに感じていただけののではないでしょうか。

もし、ご興味をもたれ、今回、掲載できなかつた剣道部ほか他の主将方のメッセージを含め原文を読んでいただければ、筆者としても望外の喜びです。

(各主将は全員48期生)

六稜会館だより

【トークリレー】

第44回 8月4日 吉川 清美さん@80期

「硫黄島の兵隊～生還した父が遺していくもの」

第45回 9月1日 松村 博さん@74期

「千年都市大阪のまちづくり」

第46回 10月6日 小畠 雄治郎さん@61期

「世相と人権」

第47回 11月3日 自見 弘之さん@70期

「我がラグビー人生」

第48回 【トークリレーDX】

今回私は初めてFR（Fresh-Rikuryo）委員会スタッフとして企画運営側に参加させていただき、最初は先輩方に囲まれ緊張の連続でしたが、第二部は就活イベントということで、就活生代表としての私の意見を耳一杯聞きだしてくださり、とても楽しく貴重な経験になりました。



就活生は何を求めていたのかと考えた結果、私の強い希望により前回までの名刺交換会とは少し形を変え、今回は各業界別にブースを分けての名刺交換会となりました。しかし、提案はしてみたものの、実際に動いてくださったのは先輩方で、当日は社会人の方々は多忙にも関わらず多数の方がご参加ください、北野の繋がりの強さと後輩を思いやる優しさに感激し、イベントを無事に終えることができた今は本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

当日が近づくにつれ、自分の言い出したことが着々と進んでいく現実を目の前に、普段は社会人

の方と接する機会がほとんどなく狭い社会で生活していた私は、どのような結果になるのか全く予想ができず、正直なところ内心は期待よりも不安でいっぱいでした。

今回のトークリレーDXに参加して自分でも驚くほど視野が広くなり、終わった時の満足感は本当に凄いものでした。

最後になりましたが、FRの先輩方を初め今回のイベントにご参加くださいました皆様に心よりお礼申し上げます。（疋地 郁子 114期）

若手の会員に同窓会への興味を持ってもらうには、どんなことをすればよいのか。FRのみならず昨今の六稜同窓会全体が抱えている危機意識に対して、一つの試みとして、トークリレーの場をお借りして、若手の「仕事選び」をテーマとした異業種交流会を企画致しました。

大学生が持つ将来への不安、若手社会人が欲する見識や人脈、自身の経験を伝えたいという先輩方の熱い気持ち。100名を優に超える、世代も仕事も異なる初対面の人達がそれぞれに「仕事」をテーマに熱く議論をする光景は、既存の表現が思いつかない、新しい同窓会スタイルの到来を感じさせるものでした。参加者からは予想以上の反響をいただきました。ご参加戴いた皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

一方で、今回がはじめてということもあり、業種や年代の多様性が限られていたこと、特に20代・30代の若手社会人の方にもっと多く参加戴きたかったことなど、課題も見つかりました。多くの方から期待を込めた次回への改善点なども頂戴しました。

今回、予想以上に多くの方にご参加戴いたことで、若手は興味がないのではなく同窓会への参画の仕方がわからなかったのではないか、そして異なる世代に人脈を広げていきたいと感じる方が世代を問わず非常に多い、ということに改めて気がつかされました。同窓会の益々の発展にあたり、人と人との



をつなげる同窓会本来の価値を高めていく必要性
を再認識した次第です。(吉野 英知 114期)

第49回 2月9日 須原 浩之先生
(保健体育科)

「断郊競走よもやま話」

第50回 3月1日 上山 弘子さん@76期

「琉球の大地に生きて(仮)」

第51回 4月 日 未定

第52回 5月10日 末廣 由夏さん@103期
「生む 生まれる 生まれ変わる(仮)」

日時★原則、毎月(第1)土曜日
13:30開場 14:00開演(約2時間)
会場★六稜ホール(六稜会館3F)
※1Fロビーも同時使用可
会費★500円(六稜通貨だと4R)
飲食★お飲み物を準備しています。

六稜カルチャー講座 再開のお知らせ

昨年3月にて、お休みになっていた山崎馨先生の「万葉に親しむ」、佐野哲郎先生の「ケルトの神話」が4月より再開される運びとなりました。両先生とも新しい構想で講義の準備をしていただいており、ご期待ください。

予定として山崎馨先生は、4,6,9,11月の第4金曜日、佐野哲郎先生は5,7,10,12月の第3金曜日と隔月となり、講義時間も14~16時半の予定にしています。

尚、講義のお世話は69期有志が担当いたします。

東京六稜会

東京六稜会 第51回総会

平成20年6月7日(土) 13:00~16:00予定
学士会館

【東京六稜俱楽部】

第56回 8月15日 吉川 清美さん@80期

「硫黄島の兵隊」

第57回 9月19日 大野 和基さん@85期
「表現の自由…」

第58回 10月17日 藤原 良雄さん@79期
「私の歩んだ道～出版家業35年」

第59回 11月21日 檜川 哲次さん@67期
「雑談コントラクトブリッジ」

第60回 12月19日 岡崎 俊雄さん@74期
「原子力の課題」

第61回 1月16日 鶴田 小夜子さん
(最高検察庁検事)

「あなたは裁判員に指名されたらどうしますか」

第62回 2月20日 中山 行輝さん@80期
(ギャンブル・ゲーミング学会理事)

「地域活性化とカジノ」

第63回 3月19日 梶田 敦さん@64期
(前名城大学経済学部教授)

「CO2温暖化説は間違っている」

第64回 4月16日 坂田 東一さん@79期
(文部科学省官房長)
「(演題未定)」

第65回 5月21日 松田 審幸さん@96期
(ソースネクスト社長)
「ソースネクストの創意工夫」

時間: いずれの日も11:30~14:00
(開場11:00を予定)

場所: 銀座ライオン7丁目店6階
「ライオン銀座クラシックホール」
東京銀座・松坂屋隣り

TEL: 03-3571-2590

会費: 2,000円

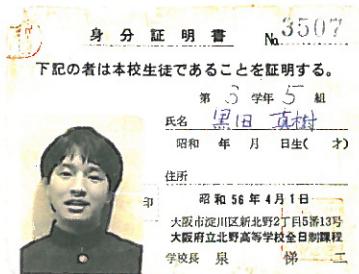
東京六稜会「東京六稜俱楽部」

事務局: 山元 一夫@64期
松本 邦宏@70期

母校に還った六稜生

【片田 清先生】

英語科 黒田 真樹（94期）



私が北野高校に入学したのは、1979年の春である。中学3年の担任に勧められるままに、大した予備知識もなく入ったので入学当初はカルチャー・ショックの連続だった。中でも驚いたのは、英語の片田先生の存在だった。

片田の授業は（と急に呼び捨てになってしまふが、これは当時のショックの後遺症なので見逃してほしい）、一言で言えば「恐怖」だった。片田があの長い廊下の端に現れると、廊下にいた生徒たちは、休み時間の途中であっても、わらわらと自分の教室に逃げるように入ったものだ。引き戸を開けて入ってくるときには、当然全員着席してセンセイの到着を待っている。机上に教科書とノートが用意してあるのは勿論である。その日のリーダー訳読の最初の生徒が指名されたときの、他の生徒たちの深いため息は語り草である。文法を徹底して叩き込み、その上でリーダー・サイドリーダーを「一言一句揺るがせにせず」仕上げていく

授業の厳しさは忘れられない。あの文法論はイエスペルセンが下敷きなのだと、ずっと後に教えられた。

当時の私は片田を目の敵のように思い、学年が進むたびに自分の担任でないことを何より喜んだ。授業では、三年間リーダーを教わった。

そんな片田先生（先生に戻る）への印象が変わったのは、大学生になり教育実習で北野高校を

再び訪れたときのことである。実習生は、各ホームルームに入らせてもらうのだが、私は実習生にも最も恐れられていた片田先生のクラスに行くことになった。そのときには、生徒であったときとはうって変わった丁寧さで一人前の大人として扱って頂いた。何だか恐縮してしまうほどだった。

高校の教員になり生徒を教える立場になったとき、片田先生の偉大さが漸くわかってきた。あの恐怖でしかなかった授業がどれだけ入念な準備のもとに行なわれていた

か。あの細かい設問の試験を採点することがどれだけ大変か。先生の教育への情熱が、自分も教師の端くれとなることで、ひしひしと伝わってきたのだ（その意味で、私は生徒や学生による授業の評価というのに懐疑的である。ある教員の真価がわかるのは卒業して何年もたつてからという場合もあるからだ。短い時間での評価は、浅い教育しか結果しないように思う）。

私自身が北野の教員になってから、先生とお話をできたのは一度か二度に過ぎない。そのとき、ふとしたきっかけで先生の書かれた『英文解釈のエッセンス』の話になった。高校生のときに買いましたが、勉強して本の背が割れてしまっていますと言うと、それなら私の手元にある本をあげようとおっしゃっていただいた。あの言葉を実現させなかつたことが悔やまれる。

先生が亡くなられて五年後の冬、私は京都大学中央図書館2階の片田文庫を訪れた。これは先生の遺された蔵書・LPレコードを、医学部教授永田和宏氏が仲介される形で、コーナーをつくったものである。ご趣味が読書とレコード蒐集であることは知っていたが、その蔵書がまさかこれほどのものとは思わなかった。教育に生涯を捧げられ、



英語科 片田 清 先生



授業の厳しさは忘れられない。あの文法論はイエスペルセンが下敷きなのだと、ずっと後に教えられた。

当時の私は片田を目の敵のように思い、学年が進むたびに自分の担任でないことを何より喜んだ。授業では、三年間リーダーを教わった。

そんな片田先生（先生に戻る）への印象が変わったのは、大学生になり教育実習で北野高校を

読書とクラシック音楽のみを友とした一人の男の姿に、今や中年となってしまった我が身を振り返りつつ、感慨を持たざるを得なかった。

高校生・大学生の学力低下が喧しく議論される昨今だが、片田先生のような高校教師がいらっしゃった事実を思うと、生徒のことを言う前に自身のことを反省すべきかもしれない。共通一次世代としては、役者が違うというか、格の違いを感じずにはおれない。北野の教員とはいっても、あれだけの印象を生徒に与えることは到底できはしないとため息をつくのみである。

【楽器を弾いた風景】

社会科 穴井 友和（102期）



学力検査の当日、数学の幾何の問題がほとんど出来なかつた私は、私学を受験しなかつたことに大きな後悔を抱いた。当然合格発表の日も不安で、自宅から北野の校門まで考え方事をしながら歩いた。あの日から、同じ通学・通勤ルートを何千回往復したのだろう。

合格発表の校門で待っていたのは、クラブの勧誘の集団で、その中に、コントラバスを抱えた先輩が2人居た。中学校では卓球部だったが、ヴァイオリンもかじっていた私は、即座にオーケストラ部入りを決定する。

当時の音楽室は、現セミナーハウスのすぐ北隣の建物の2階で、道路に面していた。現役の生徒諸君に分かりやすく言えば、現在の2年8組が比較的近い。窓を開けると、かき氷を売っているお店が目の前にある感じで、周辺の人たちはさぞうるさかったであろう。音楽室の真下が化学実験室で、2室をつなぐ階段が有ったのだが、私はここで楽器を弾くことが多かった。お風呂場のように

残響が長いので、下手くそが弾いてもいい気分になるのである。本当はこんな場所で練習すると上手くならないのだが、当時の私はそんなことに気づいていない。気分良く弾いていて、向かい側の書道教室の生徒から何度も怒られた。

オケ部出身の私だから、思い出に残っている行事と言えば文化祭である。母校へ赴任したこと也有って、オケ部の演奏で一番上手かったのは何時か？ と訊かれることがある。技術的なことを言つても無意味だから、いつも言葉を濁すのだが、内心、平成14年のベートーベン・交響曲第1番（文化祭）が、最も音楽的だったと思っている。

体育系の行事は苦手だった。水泳は人並みだったが、走る方に関しては運動神経が欠けていた（sharpではなくbreak）らしく、体育大会は本当に嫌だった。さらに、ノリの良い性格でもないから、仮装についても恥ずかしさばかりが印象に残っている。この文章を書くにあたって高校時代の写真を探していたら、仮装で「森の精」に扮した自分が出てきた。発禁処分級の代物である。

話は飛ぶが、私は大阪府南部のある高校を経て、平成12年に北野へ赴任した。直接教えていた先方もほとんど転勤され、今はただお一人である。ところで赴任初日、体育科の須原先生



から「君は在学中よく指導室に呼ばれていたね」と声をかけられた。その通りなのだが、別に悪いことをしたからではなく、オケ部の部長として、体育大会での演奏依頼などを受けていたからである。そう言えば、私の在学中は吹奏楽部がまだ無

かったから、体育大会のファンファーレもオケ部が担当していた。普段、ヴァイオリンやチェロを弾いている者が、急にトロンボーンやらを持つわけで、上手いわけがない。と言っても、同級生には許してもらえると思う。

母校に還ってからも、たまに、音楽室で練習しているオーケストラ部を見に行く。現在の音楽室は天井が高くて空間的に余裕があり、窓の位置も随分上の方だから、落ち着いた雰囲気だ。しかし、練習を見ていて、些細なことだが、昔と同じだ、と思ったことがある。合奏の時、チェロ奏者が、音楽室の壁面にあるギターケースの扉を開けるのだ。理由は簡単。扉を閉めたままだと、チェロの弓が当たってしまうのである

北野入学前の自分と入学後の自分を比べると、後者の方がはるかに長くなってしまった。社会科の教師は良くも悪くも一国一城の主と評されることが多い。しかし、北野で教えていただいた諸先生方の影響が、授業のスタイルなどに反映している部分は確かにいる。ここ数年、自分の教え子が教育実習に来るようになった。授業を見学していくと、その中に自分の影響を感じてしまうことがある。うれしいやら恥ずかしいやら。1年でもいいから、彼らと同じ教壇に立ってみたいとも思う。



六稜グッズはいかがですか？

『Tシャツ』M, L (2枚以上送料無料)

800円 (2枚1,500円)

申込番号【TSM】(Mサイズ) 【TSL】(Lサイズ)

『ハンカチ』(3枚以上送料無料)

300円 (S) 400円 (M)

申込番号【HDKS】(S) 【HDKM】(M)

『DVD六稜魂』

2,000円

申込番号【RRD】

『六稜百三十年』B5版127ページ

2,000円

申込番号【I30】

『六稜会館・新校舎スケッチ』

絵:小森裕三氏 (66期)

500円 (10枚組)

申込番号【PSS】

『LAST SHOT』

写真:矢作教諭

500円 (8枚組)

申込番号【LST】

『新旧校舎ポストカード』

写真11枚:昭和校舎

絵4枚:岡村隆久氏 (77期)

1,000円 (15枚組)

申込番号【PSC】

『昭和校舎タイル』

18×18cm 木枠化粧

5,000円

申込番号【STL】

『われら六稜人』シリーズ

1998年、1999年、2000年、2001年発行

の4冊。各冊1,500円 (4冊セットで4,000円)

申込番号

【W98】 【W99】 【W00】 【W01】 【W4S】

六稜同窓会名簿発刊へ のご協力とお願ひ

前回の会報で、名簿作成へのご協力をお願いしましたところ、厳しいご意見もありましたが概ねご賛同いただき、多くの会員の皆様からご連絡がありました。また、同期生の調査をされた学年理事さんからもまとめてご報告をいただき、感謝いたしております。

ご連絡いただきました分につきましては順次更新作業を進めております。

なお、名簿の発刊は2008年10月を目標としております。

名簿はできる限り正確であることを目指していますが、そのためには会員の皆様のご協力が不可欠です。もう一度ご確認のうえ、変更事項がありましたら、お手数ですが同封の用紙でご連絡をお願いいたします。

名簿発刊に際し、前回と同様に予約購入をお願いいたします。

今回も1冊5,000円で販売する予定ですが、購入のご予約を頂いた方には4,000円で販売いたします。もちろん送料は全て同窓会で負担いたします。たくさんの方からのご予約をお待ちしております。

また、名簿の協賛広告も募集しております。ただし、今回の広告主は会員及び会員が所属する法人又は団体に限定させていただきます。広告費用は1ページで10万円、2分の1ページで5万円と致します。原則は上記のとおりですが、3分の1ページ、4分の1ページの広告も承らせて頂きます。

お願いばかりになりましたが、名簿を充実させることは六稜同窓会の活動を発展させる礎となるものと確信しております。

どうかよろしくお願ひいたします。

この会報の会費払込用紙に印字されている各個人情報の名簿掲載について

1. 名簿の性質上、氏名、卒業年度は掲載とさせていただきます。
2. 住所等の個人情報の項目につきましては、今までの掲載可・不可をご確認ください。
3. ご変更等のある場合は、同封葉書にて訂正して、折返し返送ください。
ご希望により、封書、ファックスでも受け付けいたします。

事務局だより

年会費納入状況について

2008年1月現在での会費の納入率は18%です納入率の最も高い期は65期で48%の方が納入されています。次いで61期、57期、73期、68期、60期、62期、70期となっており、いずれも40%を超えております。一方、97期から117期までの期は10%に満たない状況にあります。

納入が未だの方は 会報にはさみこんである払込用紙で、ゆうちょ銀行（郵便局）かコンビニかの用紙を選択して、納入していただきますようお願いいたします。

尚、直近の年会費の納入状況は 六稜Webの同窓会事務局のページに掲載しています。

理事会報告

- 平成19年9月29日
- 134周年総会詳細説明
- 135周年記念名簿発行準備状況説明
- ギャラリー保全委員会答申の承認

トピックス

【100周年前後の会報】

田中 瞳 (62期)

六稜会報も50号となり、先ずは慶賀の至りです。1号・2号の六稜通信が3号から六稜会報となり、4号・5号を担当された41期の土出滋先輩から当時、100周年式典の裏方責任者として活動していた小生と家が京阪電車の香里園という御縁もあって、6号・7号と編集のお手伝いをさせていただき、あれがもう35年も昔の事になるのかと思いが込み上げて参ります。

また、会報別冊として発行した100周年外史「六稜百年 その憶い出」は実質的に土出さんから「君が責任を持ってまとめあげよ」とまかされて、座談会のまとめから寄稿原稿の整理まで予算と締め切りを睨みながら何とか発行する事が出来たのも、故土出先輩の暖かい励ましのお陰だったと改めて感謝の気持ちが湧いてくるのを覚えています。

当時、100周年記念同窓会の学年理事を担当しており、記念式典とは別に新制北野高校卒業世代として（61期生迄は旧制中学卒業で実質的には6年間在籍した62期生が最初の卒業生）「北野高校創立100周年記念 府民の感謝のつどい」（62・63・64期合同運営、事務局代表は62期の佐藤功君）を任された以上は成功させねばならぬと、62期の故八木彰一郎君（北野高校文化振興賞、通称八木賞の由来者）を代表に総合司会者も同期の吉栖勇君に依頼し、堂島の毎日ホールで大阪大学名誉教授の宮本又次博士の講演や辻久子のヴァイオリンリサイタルで好評を得たことも懐かしい思い出です。

なお当日は現同窓会長の62期生、山本次郎君作の弁護士劇「エウブリキン」が目と鼻の先の桜橋サンケイホールで開催していて、同窓の弁護士先生方が多く出演されていることもあって汗まみれで両会場を数度往復したのも、若かったから出来たのだと感無量の思いがあります。

余談ですがその後、六稜会報表紙に小生所有の佐伯祐三大先輩の絵を15号・24号・28号と使っていただいたら、19号の62期生建立の殉難の碑や13号の「遠き日の講義偲ぶや同窓会」の同窓会風景、14号の岡島先生の「十三公園からの眺め」

と、表紙に採用していただいた事まで六稜会報への思いいはつきず、今後の充実を期待してやみません。

【北京邂逅 優しさと勁さと】

志甫 淳 (66期)

2007年11月末、初冬の、思ったより暖かな北京で、先輩（64期）の段元培さんにはじめてお目にかかりました。13歳で日本に来られ、52年に北野高校を卒業されて中国に戻られた段さんのことは、ホームページの「われら六稜人」第48回で同期の山元さん、北京に駐在していた78期の小寺さんらに2001年北京で段さんが語ったインタビューに詳しく、みなさんよくご存じだと思います。

私は1972年の日中国交正常化交渉の取材のため、中国にはじめて行った日本のメディア80人の1人でした。そして、それから30年近くたって、段さんが、通訳兼世話役として、田中首相と常に行動をともにしておられたことを聞き、全く知らないまま、両国の歴史的な転換点に同じ空間の近くにおられた先輩にぜひお会いしたいと思っていました。正常化20周年、30周年の年に「回顧老記者団」（この名前をつけた中国の外交官は「みなさんが年寄りという意味ではなく、古い親しい友人（老朋友）の《老》です」と懸命にいいます）といちいさなグループで、北京はじめ各所をめぐり歴史の転換点を回顧しました。今年は35周年。本当にみな元気ながら老境に入ったと申してもいいし、来年は北京五輪ということで、でかけました。

30周年のときは、段さん、ご旅行中でお会いできませんでしたので、今回は是非に、と考えていたのですが、一行が共同行動するスケジュールがひどくタイトになってしまって、ゆっくりお会いする時間が生まれませんでした。それで、本当に申し訳なかったのですが、ある日の午後、ホテルにおいてていただくことになりました。広いロビーですから、かなり沢山の人でしたが、私は、すぐに、「あ、あの方だ」と思って、すみの方の椅子に、ひっそりと、しかし、背中をしゃんとのばして座っておられる方に「段先生ですね」と申しま

した。お写真を「われら六稜人」でみていたから、ではありません。六稜の絆のなせる業であり、私が描いていた段さんのお姿だと直感したからだと思います。

私たちの面倒をみてくれている中国外務省の女性一等書記官が、「段さんは、党中央対外連絡部で上司でした」(段さんは駐日大使館友好交流部の参考事官を二、三年勤められたこともあったそうです)と思いがけない再会に驚いていました。

段さんは、とても喜んでくださいました。山元さんははじめ同期のみなさんにくれぐれもよろしく、とくりかえして、往時を思い起こされるようでした。話ぶりはおだやかな優しさに満ちていました。お茶をのみながらのお話は、北野のころや国交正常化交渉の思い出話より、「いまの」そして「これから」の中国の状況や、日中関係の在り方といったテーマが主で、(いただいた名刺には「中華日本学会理事」とありました、つまり現役ですね)お話は広い視野にたった毅然とした風格に支えられていました。次の予定は大丈夫?と気遣ってくださっているうち、一時間があつと言う間になっていました。「来年の春に日本に行けると思います」といつておられましたので、こんどは、ゆっくり昔話を伺いたいと思っています。

お別れしたあの夕方、中国の幹部にあうため、広い四車線が、まっすぐ伸びる長安街を西にむかいましたが、車の渋滞はおそるべきもので少しも動けずに時間がたちました。

35年前、この大通りをラッシュ時にうめつくしていた自転車はほとんどみかけません。

首都北京は、上海など他の大都市同様、巨象のおそるべきエネルギーを発散しながら、変容し続けています。その奔流の中で、ほんの短時間でしたけれど、お目にかかった段さんは、経験された文革時の苦難の跡をとどめず、母國の大發展を冷静に見ながら、おだやかに、ご自分をまげることなく勁くすごしてこられた、お会いできてよかったです、とうれしいひとときを思い返します。

思えば、これまで随分たくさんの人にお会ってきました。実は、はじめての出会いで、胸にせまる感動をおぼえたのは、はじめてです。大事に春を待ちましょう。

段先生、ありがとうございました、再見!



(写真はAug 21.2001撮影)

六稜文庫(1月末まで)

寄贈者

松村 博(74期)共著 財団法人大阪都市工学情報センター

【千年都市大阪】[Osaka-millenium city]

瓜生知寿子(82期)訳者 ジュディス・マクノート

【パラダイスを君に】(上)(下)

瓜生知寿子(82期)訳者 イヴ・パンティング

【ドールハウスから逃げ出せ!】

瓜生知寿子(82期)訳者 ロバート・ウォーカー

【女検死官ジェシカ・コラン ロンドンの十字架】

(上)(下)

瓜生知寿子(82期)訳者 ジュディス・マクノート

【いつの日にか君と】(上)(下)

福井 栄一(97期)著者 福井栄一

【にんげん百物語誰も知らないからだの不思議】

北村 誠(106期)著者 まこ

【ひよこのさむらい ひよざえもん】

宮本 和樹(119期)著者 宮本和樹

【星月夜】

マルキ明子(97期)著者 マルキ明子

【ルミエール】

松代英二郎(55期)著者 松代英二郎

【私の幕末維新】

樋口日出雄(69期)著者 秋間平安

【破れた消幕】

69期 (69期)

【六稜69期会報 総集編】

近藤万里子(111期) 黒田了一

【わが師 わがことば】

伊藤 要一(76期)共編者 河合忠・水島裕監修

【今日の臨床検査2007・2008】

大槻 博(73期)共著者 大槻博・大槻きょう子

【英語史概説】

大槻 博(73期)著者 大槻博

【ジョン・ガワーの英語 一統語と修辞】

福井 栄一(97期)著者 福井栄一

【大山鳴動してネズミ100匹 要チュー意動物の博物誌】

田中 昭(75期)同期 藤原幸廣

【Q&A絵でみる野菜の育ち方 生育のメカニズムとつくり方の基礎】

田中 昭(75期)同期 萩島紘一(監修)

【DVD付き もう一度学びたい世界の名画】

Party Report

●52期なお健在なり！

澤田 麗莊（52期）

六稜伍仁会（52期・昭和14年卒）では、隔月の例会を梅田のドライ阪神でもっているが、今回は一年振りで母校の同窓会館でやろうと云うこと、皆、十三に集まった。

ミードの森みどりいよいよ濃くハナニラ匂う六月二十日のことであった。今回は一同の校内見学を教頭先生が自ら先に立ってご案内下さって感謝に堪えなかった。

駒田会長（級長）は都合で不参のため、津田御大が両者をかねた挨拶になると云うことで、昔の賀屋蔵相の健康法“コスリマクレ全身を”を演説した。毎朝洗面台のまえで顔を懸命にコスレば皺もシミもみなとれる。氏は出所後九十余で去ったが、体躯はまるで六十代と医者が云つた由。乾杯は珍客・濱中君が若々しい声で音頭をとった。

これからは和気藹々、談論風発と各テーブルが賑やかとなるのであるが、本吉君のスピーチを紹介しよう。

“みなさん、テレビを1週間見ないという実験をやりませんか。わたしは5年前まで、家にそれを置かなかった。人生で最も大事な物は、‘時’です。あれは利害得失が無論あるけれど、差し引きすればマイナスとなる代物です。妻が求めるので買ったが、やはり要らない。それで今日云おうか、明日云おうかと、口まで出かっているのです”と。

学習院の、紀子様の父君も置かなかったと聞いているが、凡人のわれわれは、タイガースも見たいし、楽天のマーチヤンも気にかかる。それに七月の参院選の結果など、新聞ではトロクサイ。しかしこの本吉君の投げた一石は、哲學的な問題ではある。あと数名の人々から癌や脊椎管狭窄症などのオペの話が語られた。それまで黙って聴いていた津田御大が、ポツリと漏らした。“みんな、いろいろ、やってんねんなあ”と。夫子、また七発の弾片を体内に留めていると云う。

かくて卓上の珍味もなくなり、ひとりビールのみ残る午後三時、津山カメラマンが、今年もお世話をかけた事務局の久保田静さん（73期）

もご一緒にと、一同の集合写真を撮影し、トンキン戸崎君の遺墨の校歌を齊唱し、児山君音頭のもと、伍仁会の万歳を三唱して解散したのであった。昨年の写真と比べると、今年は三人ほど少ない。当然と云うべきか、はた、十三は遠いと云うべきか。

●66期同期会報告

清水 正昭（66期）

石川啄木のうたに「己が名をほのかに呼びて涙せし 十四の春に戻るすべなし」というのがある。青春は二度と戻ってはこないというのを大変感傷的に歌ってわたしの心に残っている。しかしほんとうにそうだろうか。その昔心躍らせて読んだ本を再読したり、懐かしい場所を訪れたり…、今日は青春時代を過ごした母校に来て、しかも旧友たちと再会している。そうすると気分はたちまち青春時代に戻り、古希を過ぎた「かれ」や「彼女」は「あの子」「この子」に変貌する。十四の春に戻るすべはあったのではないか。もし、肩が痛いとか、腰が痛いとか、病気の話さえしなければ。（同窓会では、病気の話で雄弁になるのは避けたいもの。）

昔、ギリシャ時代の哲学者にディオゲネスという変わった人物がいた。昼間にちょうどちんをぶら下げてアテネの町を歩いて、どこに人間がいるのかと探してみたり、アレキサンダー大王がこの有名な哲学者に会おうと目の前に来て、何か望みはないかとたずねたとき、かれは「いま昼寝をしているのでそこを退いてくれませんか。日陰になるので」といった。そのディオゲネスが老年を迎える友達から「キミはもう年寄りだ。こんごは力を抜いてくつろぎたまえ」といわれた。するとディオゲネスは「なんだって、もしづくが長距離ランナーだとしてゴール間近になったとき、力を入れるのでなく力を抜けというのかね」と応じたという。

われわれも、70年を越す長距離を走りぬいて、ようやくゴールが見えてきた。（最もあまり早くゴールインはしたくないが…）漢詩の構成の「起承転結」でいえば全体をまとめあげる第4の結句にあたる部分を生きている。音楽でいえば最終楽章を奏でているといえようか。ここで、力を抜いては駄目だ。残る人生を精一杯生きようではないかとディオゲネスは教えてくれているのだろう。

「青春は酒なしに酔い、老年は酒によって若返る」ゲーテの言葉だ。今日は旧友と酒を酌み交わし大いに若返ろうではないか。

(昨年10月20日同期会あいさつから)

●69期生、卒業50周年を祝う

上原 道子（69期）



我々69期生が69歳になる今年は卒業50周年、その記念同窓会を11月17日、北野高校内で開き156人が賑やかに集いました。

多目的ホールで始まった式典は、まず黄泉の国に旅立たれた先生方や級友に黙祷を捧げ、代表挨拶の後、ご出席下さった石本校長、恩師の石田、今中、稲葉各先生方から祝辞をいただきました。

続いての卓話二題はそれぞれ同期のエキスパートによる「裁判員制度」と「セカンド・オピニオンを上手く求めるには」。

裁判員制度に関して弁護士の樋口氏は、重大な犯罪を裁くのに素人が加わる意義や、人生で培ってきた豊かな感性や市民感覚を活かす場なので、もし当たったら逃げずに参加してほしい、という話に前向きになった人も多い筈です。

呼吸器専門医・門田氏のセカンド・オピニオンに関する話は具体的で分かりやすく、医者に「おまかせします」ではなく、納得のいくまで説明を聞き、よき医者を選び、自分のことは自分で決める時代であると実感しました。

嬉しかったのは在校生の吹奏楽部の演奏です。彼等のおじいさん、おばあさん世代の私たちに素敵なプレゼントをくれました。懐かしのジャズ・メドレー、唱歌、風林火山やアイバンホー、などドラマティックな演奏に、思わず感動するうるしてしまいました。ゴスペラーズの「言葉にすれば僕たちがめぐり逢い」という歌詞をふと思い出し、君たちも未来にはばたいていく時、この仲間と共有した切磋琢磨の思い出はきっと生きる力になるよという思いを、ありがとうございました！と共に贈りたくなったのです。暖かな校庭での集合写真にはみんな何度もくいい顔>をして収まりました。

この後は六稜会館に移動し、一階フロア一杯に展示された「作品展」に群がり、書に始まり絵画、写真、俳画、俳句、写真と俳句のコラボ、仏像彫刻、シャドーボックス、お人形、着物のリフオーム作品、等々…同期生の存在感を表わす作品に感嘆の声が飛び交っていました。

三階ホールでの立食パーティでは飲み食い以上に話に花が咲き、思い出の歌のBGMあり、ゲームあり、おおいに盛り上がりました。50周年のために作られた思い出のあの日の時を詠んだ歌詞を、デューク・エイセスの「おさなじみ」のメロディーにのせてみんなで大合唱。そして校歌齊唱で華やかな同窓会はお開きに。未だ「語りつくせぬ想い」は二次会へとなだれ込んだのでした。



卒業50周年記念 “わが青春の北野高校”

作詞 大野(山本)文子・荒井 徹

- 1) あなたは憶えているかしら 図書館階段上と下
思わず落とした「狭き門」駆け寄り拾ってくれたよね
- 2) きみは憶えているかしら 野球の応援アルプスの
僕呼ぶ声に励まされ ホームめがけて走ったぜ
- 3) あなたは憶えているかしら 音楽喫茶の田園で
初めて聴いたベートーベン コーヒー甘くて苦かった
- 4) きみは憶えているかしら テニスコートのネット裏
サッカーさぼって盗み見た きみはコートの蝶だった
- 5) あなたは憶えているかしら ブールサイドの雨上がり
心一つに歌ったよね ロシア民謡、反戦歌
- 6) きみは憶えているかしら 阪急電車の通学を
たった5分で梅田着 夢はかなしほや別れ
- 7) みんな憶えているかしら 淀川堤防走ったね
白い吐息が熱かった ガリ勉忘れて燃えたよね
- 8) みんな憶えているかしら あまりにも早く逝った人
アルバム見るたび思い出す「やあきたの」って笑ってる
- 9) 指折り数えりや何のその 校舎離れて五十年
頭は白くなっただけど 誰にも負けない心意気
- 10) 昔懐かし思い出を 胸に抱いて今日集う
きみもあなたも変わらない わが青春の北野高校
きみもあなたも変わらない わが青春の北野高校

記念切手も発行し、前日のゴルフ大会、翌日の農園での収穫祭と、三日にわたる50周年記念同窓会でした。50周年記念文集も来春発行の予定です。私たちがどんな時代を生きてきたのかを思う時、58人の仲間が鬼籍に入りましたが、戦争で一人も亡くしていないのはやはり平和であったのだという思いのした一日でした。

●74期同期会報告

笹川 忠士 (74期)

我々74期生は昭和37年(1962年)に母校を卒業してから今年で45年ということで今年の同期会は45周年に相応しい企画を立てようということになりました。今回幹事役を引き受けてくれた水谷君が幹事会を招集し、その席でいくつかの案を作成して全員にアンケートを取り、その結果大阪・東京の中間地点浜松で開催することに決定しました。

当日平成19年12月2日(日)は大阪と東京からバスで同時出発しました。大阪側19名、東京側17名それに地元から2名総勢38名の参加者です。館山寺ロープウェーの頂上で東西のメンバーが合流し、浜名湖オルゴールミュージア

ムで珍しいオルゴールの実演に耳を傾けたあと宿泊先の遠鉄ホテルエンパイアに集合しました。三々五々温泉に浸かったあと午後5時15分から同窓会総会を開催、沖見会長の挨拶、新会長の選出(笹川)、加藤会計幹事による前年度収支報告の承認、笹川学年理事による六稜同窓会理事会の報告、次年度幹事(織田君)の選出が行われ、引き続き懇親会に移りました。懇親会では水谷幹事の発声で乾杯の後懇談、アルコールも廻ったところで各自が近況報告を行い、ヤジが飛び交うなか全員がしゃべり終わったころにはすっかり昔に戻ってあちこちで話の輪が出来盛り上りました。出色であったのはマドンナ達によるパフォーマンスで、全員が赤色の衣装を着て赤い靴の歌にあわせてダンスが行われ、会場の男性達からヤンヤの喝采を浴びました。最後に校歌を5番まで斉唱し、記念撮影を行って一次会は終了しました。



引き続いてホテル内のカラオケルームで全員参加の二次会を開き、各自が自慢の歌を披露してくれました。途中からお酒の勢いも手伝って歌に併せて踊りだす人も現われ、最後は全員で輪になって再び校歌を斉唱し二次会のお開きとなりました。翌日はゴルフ組と観光組に別れ、ゴルフ組は浜松カントリークラブに向かい、観光組は浜名湖遊覧船から井伊谷宮龍潭寺それに奥山方向寺で昼食を取りましたが、バスの中は観光そっちのけの思い出話が続きました。ゴルフ組は5組17名(内女性4名)の参加で、雨中の熱戦となりましたがダブルペリアでのコンペで笹川がハンディに恵まれて優勝させて頂きました。ゴルフ表彰式終了後ゴルフ場近くの森林公园で観光組と合流し、バスを乗り換えて大阪組と東京組に別れ帰途につきました。今回は同期会としては初めて宿泊しての会で、しかも東西合同の会ということで幹事の皆さんには大変ご苦労をかけましたが、静岡からも板井君、中森君が初めて参加して頂き、大変充実した会になりました。



10数年前から毎年実施してきた同期会ですが、今回の1泊旅行は、卒業以来始めて会ったという人たちも多く、同窓会の新しいスタイルとしても考えさせられる集まりにもなりました。しかし、様々な事情で多くの人が参加できなかったことが残念です。

以上今後の74期同期会の益々の充実を祈念しまして報告を終えさせて頂きます。

●95期、全体同窓会その後

塩崎 美幸（95期）

95期は、平成17年5月に、22年ぶり、卒業以来初めての全体同窓会を開催いたしました。

あれから3年。社会人として、家庭人として20代30代を懸命に駆け抜け、40代に突入し、ちょっぴり余裕の出てきた95期が集う機会や場が、確実に増えています。

全体同窓会前には、95期のHPを開設。その後、mixi内に「北野高校95期」コミュニティを作成、現在40名ほどが登録し、懐かしい話や、近況を伝え合い、日々ネット上で交流しています。

大阪で、年に1、2回行われていた同窓会幹事団（学年理事中心に現在9名）の会も、最近は、口コミや、mixiでの募集など、試行錯誤しながら計画し、より多くの、より新しいメンバーに参加いただき、その輪は熱く広がっています。

この大阪での盛り上がりに刺激を与えている



のが、「95期東京同窓会」です。全体同窓会の翌年、東京近郊在住の有志メンバーが計画、一昨年秋には、30名が渋谷に集い大盛況をおさめました。その後、東京同窓会の幹事団も9名に増え、昨秋にも、25名ほどが集う会を開催、私も学年理事と共に、大阪より遠征参加させていただきました。入念な準備、巧みな司会進行やゲームに、参加者のテンションは上がり、2次会の終わりには、渋谷の街で円陣組み、校歌齊唱。正午からスタートした会は、日付が変わる頃、5次会まで続きました。

それを受けるように、昨年末、大阪で行われた忘年会、14名が堂島に集いました。1次会から4時間という長時間の設定でしたが、ひとりずつ近況と用意した質問にお答えいただいたり、卒業アルバムや「六稜魂」DVDを見たりしながら、新しい校舎、変わらない高校生活を懐かしんだり。この後10名ほどで、3次会までおよそ10時間、盛り上りました。

このような会をきっかけに、少人数のランチや飲み会、趣味など多種にわたり、95期で集まる機会が増えた、という嬉しい声も度々耳にします。

幹事をさせていただき、また参加させていただく度に強く感じるのは、久しぶりの懐かしい再会だけではなく、新たな出会いが生まれる、ということです。当時は12クラス約550名と大人数で、接点が全くないと、顔すら記憶になく、こういう場が「はじめまして」な関係も珍しくありません。でも、3年間、同じ学び舎で同じ空気を吸い、苦楽？を共にした経験は、25年たった今も、みなの中に確実にとどまり、お互いを自然にかつ強く引きよせ、新たな縁を繋ぎ、またさらに広がっているのです。

7年後の平成26年、141周年総会は、95期が担当させていただきます。私どもは、それをひとつひとつの目標に、住所不明者の確認と並行して、より多くの95期が参加し旧交を温められる機会を今後も計画していきたいと思っています。



●104期同期会報告

加藤 寿 (104期)



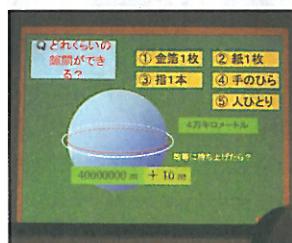
参加人数150名
余という大人数が
参加した、卒業15
年目の同期会。FR
委員会の協力も得
てプログラムを組
み、時間割形式で

進行しました。

1限目 (14:00~14:15) 生物 (下村先生)

きれいに整理されたプリントが懐かしい下村先生には、「生物関係で面白い講話を」とお願いしました。「2003年4月7日は誰の誕生日?」「その1週間後、2003年4月13日は、生物関係者には忘れられない日。どんな出来事があったでしょう?」の両方の問いに、きちんと答えが出たのは、さすが北野生?! (答: 4/7…鉄腕アトムの誕生日、4/13…ヒトゲノムが解明された日)

2限目 (14:15~14:30) 数学 (八尾先生)



ロープを張ったとして、そのロープに10m足すと、地表との間にどのくらい隙間が空くか?」など、興味深いテーマで数学の講義をしていただきました。

3限目 (14:30~14:45) 物理

物理科の先生にはご参加いただけなかったので、北野名物「ブランク」に。

4限目 (14:45~15:15) 実力テスト

北野にまつわる問題で、クラス対抗で楽しくクイズ大会。優勝クラスには六稜グッズを、負けたクラスには罰ゲームとして、これも北野名物「縄跳び」。

久々のロープの感触に、やる側も見る側も大変盛り上りました。

5限目 (15:15~15:30) 国語 (鎌田先生)

先輩でもあり、現在北野の教頭をされている

鎌田先生には、現在の北野の生徒募集の取り組みや北野の校舎の移り変わりについて語っていただき、北野の変遷を紹介するビデオを上映。懐かしい校舎の姿に、思わず高校生時代の思い出をかき立てられました。

6限目 (15:30~16:30) オリエンテーリング

現在の校舎見学。きれいに建て替えられた校舎の今の姿を、旧校舎と比較しながら見学できる案内図を手にしながら見て回ると、変貌ぶりをさらに実感できるいい時間でした。

NR (16:30~17:00)

写真撮影etc



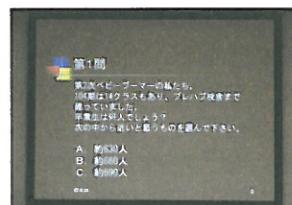
大人数の撮影ということで、六稜会館前のロータリーで撮影。ポーズは「頭、右!」で決めてみました。

放課後

二次会参加者100人余と、ここでも大盛り上がり。ほとんどの先生方にもご参加いただき、「授業」のあとのお酒にみんな大盛り上がりでした。

●116期同期会報告

中井 亮 (116期)



去る12/28(金)116期同窓会を六稜会館にて開催いたしました。当日はあいにくの悪天候にもかかわらず、1次会に170名あまり、2次会にも100名を越す同期生に参加していただきました。

また、1次会には高校時代にお世話になった正者先生、中谷先生、中村先生、小田切先生、佐々木先生、福本先生、にもご参加いただき、教え子たちと高校時代を振り返りながら、第1部・第2部ともに楽しんでいただきました。

1次会は2部構成になっており、第1部「北野高校116期ゲーム企画」と題し、3種類のゲームで

大いに盛り上がりました。第2部は「フリートーク」で、お菓子と飲み物を配置し立食パーティー



の形式で自由にご歓談いただきました。こちらでも、普段なかなか会うことのできない同期生との話に、みな花を咲かせていました。

フリートークにて

2次会はがんこ寿司安田生命ビル9Fの宴会場をお借りして行いました。こちらではお酒も入り、フリートークの短い時間では話し足りなかつたことも手伝って、大いに盛り上がってきました。こちらでは、ラグビーの審判を終えたその足で駆けつけていただいた太田先生にもご参加いただきました。

2次会

準備段階から当日まで、いろいろなハプニングがあり、苦労する場面も数多くありましたが、参加していただいた方々にはとても楽しんでいただけたようで、実行委員一同、苦労が報われた思いです。

最後になりましたが、非常にお世話になった事務局の久保田さん、本同窓会の言い出しちゃしてくれた草間くん、ムービー作成から企画内容まで構成し、当日は司会に奮闘してくれた中山くん、企画立案と当日のしかいで皆を笑わせてくれた楠本くん、2次会の予約など円滑な運営に尽力してくれた米坂くん、急なお願いにもかかわらず貴重な意見と力を貸してくれた池田さん、澤田さん、そして当日ご参加いただいた先生、同期生のみなさま皆様に感謝いたします。



●クラブ対抗ゴルフコンペ

坂平 秀雄 (89期)

2007年10月14日(日)、恒例の第19回六稜クラブ対抗ゴルフコンペが三田カントリー27で開催されました。各クラブ5名以上を1チームとして、上位5名の合計スコアで(新ペリア方式)団体優勝を競い合います。今回は前年度優勝のバレーボール部をはじめ、テニス部、卓球部、陸上部、野球部、水泳・ハンドボール・器械体操混成の6チーム(8クラブ)の参加、計42名(63期から109期)で日頃の腕前を競いました。

団体戦の優勝は野球部(9名参加)2位がバレーボール部(6名参加)となったのですが、怪我的功名とは正しくこのようなことで、例年、野球部はA・Bの2チームで参加しているのですが、今回は、わたくしの段取りが悪く9名しか揃わずに1チームの参加となってしまいました。ところが、1チームの人数が他のクラブより上回っていた事により、上位5名の合計スコアで競うルールが有利に働き、そして、ナインとして纏まったように思います。一方、個人戦は、栄えある優勝が野球部の前田忍さん(76期)惜しくも準優勝がバレーボール部で今回最年長期の北島源太郎さん(63期)がご健勝振りを發揮されました。ベストグロスは野球部の佐藤友彦(88期)さんでした。

懇親会では、各々本日のプレーを振り返りながら、また、クラブ間を越え昔日の話に盛り上がり、縦の繋がり、横の繋がりの大切さを感じました。わたくしが初めてこのコンペに参加したのが10年前、当時の参加クラブは、本日の8クラブはもちろんの事、サッカー部、ラグビー部、柔道部、剣道部、山岳部、応援部、演劇部の参加があり、大盛会で、各クラブの、北野高校同窓生の懇親の場がこんなところにもあるのだなあと感銘を受けたことを覚えております。昨今、参加クラブの減少に憂えているのですが、今回、卓球部の多田充宏さん(96期)バレーボール部の浅井一馬さん(109期)が参加してくださって裾野の広がりを感じ嬉しく思います。

2008年も六稜クラブ対抗ゴルフコンペは10月の開催の予定です。多くのクラブで対抗戦が出来ますよう横の繋がりの「一声」、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、幹事クラブのバレーボール部の皆様、有難うございました。

ン・メドレー」
「ライオンキング」より愛を感じて
〔合宿〕(3/18-21、京都府立るり渓
少年自然の家)
〔新入生歓迎演奏会〕(4/12)
「ラブソディー・イン・ブルー」他
〔第10回定期演奏会〕(5/4)
「風葉の舞」
「ルイ・ブルジョアの贅歌による
変奏曲」他
〔六稜祭〕(6/10)
「幕星」
「サウンド・オブ・ミュージック」他
〔奏でよう夏の吹奏楽コンサート〕
(7/22)
「マーチ 光と風の通り道」
「楓葉の舞」
〔第46回大阪府吹奏楽コンクール〕
(8/3)
北地区大会 金賞
「マーチ 光と風の通り道」
「楓葉の舞」
〔北野高校平成19年度体育大会〕
(10/20)
ファンファーレ「フェスタルマーチ」
「76本のトロンボーン」
「鉄腕アトム」
〔中学生体験入学〕(10/27)
「ディズニー・ファンティリューション」
〔第一ブロック音楽祭〕(11/11)
「アイヴァンホー」
〔アンサンブルコンテスト校内選考会〕(11/16)
〔69期六稜同窓会〕(11/17)
「風林火山」
「Let'swing」他
〔ミニコンサート「音の大収穫祭〕
(11/26)
「メリー・ウィドウ」
「アイヴァンホー」他

【ストリートダンス同好会】
現在、部員10人（1年女子2人、2年女子4人・男子4人）で楽しく活動しています。学校外での活動の幅も広がっており、大学や中学の文化祭の出演のみならず、ダンスコンテストにも出場するまでになりました。部への昇格目指して、日々練習に励んでいます♪
2月 豊中市主催第2回ダンスフェスタ出演
6月 六稜祭にて2回公演
11月 大阪工業大学北山祭出演
学校中庭で発表 第三回
12月 K-Palette CUP DANCE
CAMPIONSHIP 2007

【生物研究部】
現在は1年生部員3名で組織培養を中心活動中です。ほかの実験や観

察なども精力的に行っていこうと思
います。
〔六稜祭〕
「原形質流動・原形質分離」
「プラナリアの走性」
「ブロッコリーのDNA抽出」
の研究発表しました。

【地学研究部】
部員は2年3名。六稜祭で、天文台の開放をして普段見ることがなかなかできない北野高校の誇りでもある天文台を一般の方にも見てもらいました。同時に天体観測をしたときに撮った月の写真や太陽の写真なども展示発表しました。

【美術部】
メンバーは2007年11月現在、1年が7人、2年が1人です。
2月 ブロック展（大阪府）
4月 新入生勧誘活動…七宝焼体験
5月 六稜祭に展示する静物画・
デザイン画の製作（1年）
六稜祭の看板製作（3年）
6月 六稜祭（文化祭）
プログラムの表紙デザイン
校門に設置する看板製作
多目的ホール（講堂）の会
談全面にピカソの「ゲルニ
カ（美術部オリジナル彩色
版）」を展示、多目的ホール
前ホワイエに部員全員の作
品と部員同士による自己紹
介を展示
7月 部員（有志）と顧問の先生方
で陶芸
8月 府立高校展に8点出品
1年油絵、3年デザイン画入選
9月 水泳大会プログラムの表紙デ
ザイン
10月 体育大会プログラムの表紙
デザイン
11月 美術部初のカリフラフィー
入門…顧問の先生へ出産祝
いカード製作

【美術部】
物理研究部は現在1人で活動して
います。主な活動内容は、「物理の何
か」「プログラミング」「ロボット」
「ときどき工作」など、基本的に自
由です。したいことなら大抵何でも
できます。もし興味を持ったら、中
央階段を上って2階のガラス張りの
扉を抜けたところにあるLAN教室へ
来て見てください。RPGツクール
XP入りました！

【フォークソング同好会】
先輩、後輩みんな仲良くアットホー
ムな雰囲気で活動していて、主にみ
んな自分の好きな曲を弾いていま
す。現在、部員は1年2人、2年7人
の計9人です。
1月 文化芸術祭のオーディション
参加
3月 合格発表にて演奏
4月 新入生歓迎演奏会（体育館）
3月9日/レミオロメン
6月 六稲祭に参加（六稲会館前・
ステージ）
Yell～/コブクロ、春風/ゆず
計2曲
君の街まで、ループ&ループ
/ASIAN KUNG-FU GENERATION
計5曲
11月 部内ミニ発表会

【文芸部】
たくさんの新入生を迎えて、現在13
名で活動しています。例年通り、6
月の六稲祭では「北野文学」「幻」を
発行し、9月には季刊誌「F-Style」
「B-style」を創刊することができま
した。「F-Style」は「Free Style」の略
で、自由に作品を書こうというのが
コンセプトです。対して「B-Style」
の方は「Breaking Style」。こちらは
お題付きですが、お題に縛られない、
枠にとらわれない発想で創作して
いこうという意味合いを持っています。
今後は1月に「F-Style」「B-Style」の第2号。更には2月、「極
彩色の彩空想」と「幻」を発行予定
です。今後の活動指針、部員の精力
源となりますので、部誌の感想、ご
意見等ありましたら是非北野高校文
芸部宛てにお寄せ下さい。

【放送部】 現在活動休止中

【漫画研究同好会】 現在活動休止中

六稜同窓会135周年記念総会 開催のご案内

日 時:2008年10月26日(日)

場 所:北野高校 多目的ホール・六稜会館

担当期 89期

時間等詳細は51号にてお知らせします

135周年記念名簿 販売予約受付中

予約は3月からゆうちょ銀行(郵便局)の払込取扱票で
4,000円の払込をもって予約とさせていただきます
予約期間は8月末までとします(定価 5,000円)



六稜会報

No.50

発行日 2008年3月1日

発行者 山本 次郎

編集委員 岡田 一彦(65期)

壽榮松正信 (74期) 作山 優子 (88期)
安井 昌子 (88期) 出口 学 (94期)
松田 典子 (95期) 中嶋 明子(106期)
北野 美穂(113期)

発行 六稜同窓会 <http://www.rikuryo.or.jp/>

〒532-0025 大阪市淀川区新北野2-5-13 府立北野高校内
phone.06-6306-0374 fax.06-6306-1335

印刷 株式会社 シーズクリエイト

〒536-0011 大阪市城東区放出西1-7-15
phone.06-6969-6090 fax.06-6969-6089

事務局 月・水・金(祝日は休)10:00~17:00 六稜会館2階